

環境心理生理運営委員会 議事録 2012 年度 第 4 回

文責 辻村

- A. 【日 時】 2013 年 2 月 19 日 火曜日 (17:30～19:30)
- B. 【場 所】 建築会館 会議室
- C. 【出席者】 松原斎樹(主査)、辻村壮平(幹事)、
秋田剛、大石洋之、大野隆造、合掌颯、小島隆矢、讃井純一郎、
西名大作、宗方淳、山中俊夫
順不同・敬称略
- D. 【配布資料】 2012 年度 第 3 回環境心理生理運営委員会議事録(案)
2012 年度 第 4 回環境心理生理運営委員会議事次第
2012 年度 第 4 回環境工学委員会資料抜粋
2012 年度 各小委員会活動成果報告書
2013 年度 各小委員会活動計画案及び設置申請書

E. 【報告事項】

1. 2012 年度 第 3 回環境心理生理運営委員会議事録(案)の確認

前回議事録(案)の確認を行った。記載内容について修正に関する指摘・意見が特になかったため、正式な議事録として承認された。

2. 2012 年度 第 4 回環境工学委員会の報告

第 4 回環境工学委員会の内容に関して、特に本運営委員会に関連の深い事項について松原主査から報告があった。

■ 2012 年度大会（東海）の概要報告

2012 年度大会（東海）の環境工学部門の発表題数は 1283 題（述べ参加者 2909 名）であった。

■ 2013 年度大会（北海道）について

・発表会場の決定方法について

学会では前年度の参加人数のデータに基づいて翌年度の発表会場の規模を決めている。この大会発表会場の決定方法については以前にも異議を唱える声が挙がっており、本運営委員会においてもこの決定方法に見直しが必要ではないかということで意見がまとまった。この件については松原主査から学会へ意見を申し立てて頂くこととなった。

・紙面投稿締め切り : 4 月 4 日 (木)

・電子投稿締め切り : 4 月 10 日 (水)

本年度より OS も電子投稿となり、OS の投稿締め切りは 3 月 1 日 (金) である。

・プログラム編成会議 : 4 月 24 日 (水)

学会の予算削減に伴い、各委員会とも旅費経費の節減に十分配慮しなければならず、できるだけ関東圏の委員を選任して頂くようにというお願いがあった。

・2013 年度大会の研究協議会及び研究懇談会の企画

環境工学部門の研究懇談会及び研究懇談会のテーマはそれぞれ以下の通りである。研究協議会：「異分野からの視点を活かす建築環境工学－人材育成と地域課題解決に向けた

連携のすがたー、研究懇談会：「U-40 が語る環境工学研究の最前線と分野連携ーこれから 20 年のビジョンー」。研究懇談会では環境心理生理分野から辻村が発表することとなっている。

・ 2013 年度大会 OS

本運営委員会では「心理生理実験から実空間創造へ」というテーマで OS を実施することが決まっており、OS への研究報告を募集している。

■ 2013 年度予算配分（案）

2013 年度予算（案）は環境工学分野全体で 1 割程度削減されている。本運営委員会の配分（案）については、352,000 円で、前年度比－32,000 円となっている。

予算は論文集・技術報告集への掲載題数、大会梗概集への掲載題数、大会 OS への掲載題数、シンポジウム等への参加者数、出版物の刊行点数にそれぞれ重み付けして、これらの実績に基づいて算定されている。しかし、環境工学委員会資料 p.86 に掲載されている実績では、本運営委員会の 2007 年度から 2011 年度の刊行点数の項目が全て 0 となっており、このデータについて異議が挙げられた。この件については松原主査が環境工学委員会に問い合わせることとなった。

■ 日本建築学会の活動活性化に向けた取り組み

委員会の経費節減のため、インターネット会議の促進や委員会資料の電子化（ペーパーレス化）などを促進したいという学会の方針である。資料は PDF 化して事前配布しておき、資料を忘れてきた委員は自費でコピーするようにしたい。今後、旅費の半券や宿泊の領収証が必要になる可能性が大きい。

若手会員の活躍の場の提供として、大会発表における若手の優秀発表の顕彰や外国若手会員の発表の場（英語のセッション）を設けることを検討する。

■ 東日本大震災関連 WG の進捗状況報告

東日本大震災合同調査報告書の編集委員である榎幹事が欠席していたため、松原主査から進捗状況が報告された。榎幹事が第 7 章を担当することになっている。

■ 論文集委員会への委員の選出

環境心理生理分野からは秋田委員に論文集委員会の委員として活動して頂いているが、本年度で 2 年の任期を終えるため、次期委員として合掌委員にお願いすることになり、運営委員会で承認を得た。

3. 各小委員会の活動成果報告

各小委員会の活動成果報告をそれぞれの主査あるいは幹事が報告した。

○ ヒューマナイジングの実践小委員会

主査の讚井委員から 4 年間の活動成果報告があった。ヒューマナイジングの実践小委員会は本年度が最終年度であり、次年度以降はこの後継委員会として新たに持続性社会の環境心理小委員会の設置申請を行い、宗方委員がその委員会の主査になる。

○ 環境心理小委員会

現主査の宗方委員から 4 年間の活動成果報告があった。環境心理小委員会は本年度が最終年度であるが、次年度以降も継続して設置申請を行った。次年度からは榎委員が主査になる。

○ 感覚・知覚心理小委員会

感覚・知覚心理小委員会は本年度が最終年度であり、主査の西名委員が4年間の活動成果を報告した。次年度以降は感覚・知覚心理小委員会の後継として心理生理のフロンティア小委員会が設置され、土田先生が主査となる。また、感覚・知覚心理小委員会でこれまでに実施してきたシンポジウムの資料をまとめ、成書として刊行することを目的に感覚・知覚心理研究刊行小委員会も設置申請しており、この小委員会は西名委員が主査となっている。

F. 【審議事項】

1. 2013年度より設置予定の各小委員会の時期活動に関する意見交換

2013年度から設置予定の各小委員会の活動計画について、それぞれの小委員会の新主査あるいは前身の委員会の現主査が報告し、活発な議論が行われた。

○ 環境心理小委員会 (2013.4～2015.3)

楨委員が主査を務め、次年度からは環境心理小委員会の下にチュートリアル運営WGと環境心理研究手法WGを設置し、第13回環境心理生理チュートリアルの開催(教育)と、環境心理生理分野の現在までの研究状況を整理し、今後取り組むべき課題及び研究発展のための方策を検討する(研究手法の発展)活動を予定している。詳細な活動はこれらのWGで実施することになる。

○ 持続性社会の環境心理小委員会 (2013.4～2015.3)

宗方委員が主査を務め、持続性社会の環境心理小委員会では、ブレインストーミングにより持続性社会のために環境心理的知見が必要な分野や課題の抽出、関連する研究知見の収集と整理、全体のフレームワークの構築などを行う。

○ 心理生理のフロンティア小委員会 (2013.4～2015.3)

土田先生が主査を務め、人間の感覚・知覚的研究に基づいた多様な研究成果を建築設計やまちづくりなどへ反映させることを目指し、シンポジウムの開催や初学者向けの研究手法に関する研究会の開催を主な活動として行っていく。

秋田委員から、環境心理小委員会は活動が内向きになっている印象を受けるので、是非、他学会など協力して活動していく(MERAや音響学会など他学会との協力体制)ことを望むという意見が挙げられた。これについては運営委員会でも議論を行い、環境心理生理分野の活動を考えていくことでまとまった。

2. 環境心理生理運営委員会のHPに関して

前回、幹事の辻村が本運営委員会HPの委員紹介のところで各委員の研究室HPへリンクを貼ることになっており、了承頂いた委員にはリンクを貼っている。また、前回議論になっていたHP上での教材の共有については今後も議論していく方針である。

G. 【次回の開催日程】

松原主査の発信でメール会議により決定する。